

地域のことを調べて発表会をしました



中学部では、10月下旬から1か月をかけて、学校のある大岩地区の魅力を伝えようと、学校の近隣にあるお店と協働した学習をしました。学習では、お店の紹介をまとめるためのインタビューと、お店の商品のパッケージを考えたり商品の新しい味を考えたりする活動の二つを行いました。

学習の成果は、11月20日に行った発表会で、学校に隣接する老人施設の方や保護者の方に発表しました。また、この日は、自分たちが考えたパッケージや商品の販売会も行いました。紹介したお店の方に「ありがとう」と声を掛けていただき、生徒たちも学習の成果が披露できてよかったという感想が聞かれました。

この日は、静岡新聞社の方が取材に来てくださり、11月23日の新聞記事で紹介いただきました。新聞に載ったことも、生徒たちは大変喜んでいました。

特別支援学校生が
地域連携し新商品
葵区で成果発表

静岡大付属特別支援
学校中学部（静岡市葵
区）は地域交流を目的
に、地元の商店と連携
して商品のパッケージ
製作などを行った。20
日、同校で保護者や従
業員を前に成果を報告
した。

生徒18人が製パン・
総菜店、製菓店、製茶
店の3グループに分か
れ、パッケージを考案
した。商品をモチーフ
にした新しいキャラク
ターを生み出すなど、

中学生らしい発想が光
った。製作過程では各
店舗で商品の袋詰め作
業も手伝った。

この日の発表会で
は、店の従業員に聞い
たお勧め商品や店の歴
史などを画用紙にまと
め、パッケージととも
に披露した。販売会も
開催し、売り切れる商
品もあった。

生徒会長の中川康聖
さん（14）は「キャラク
ターを決めるのに悩ん
だけれど（班の）みん
なが良い案を出してく
れたので良かった」と
話した。

制作したパッケージを披露する生徒
＝静岡市葵区の静岡大付属特別支援学校中学部